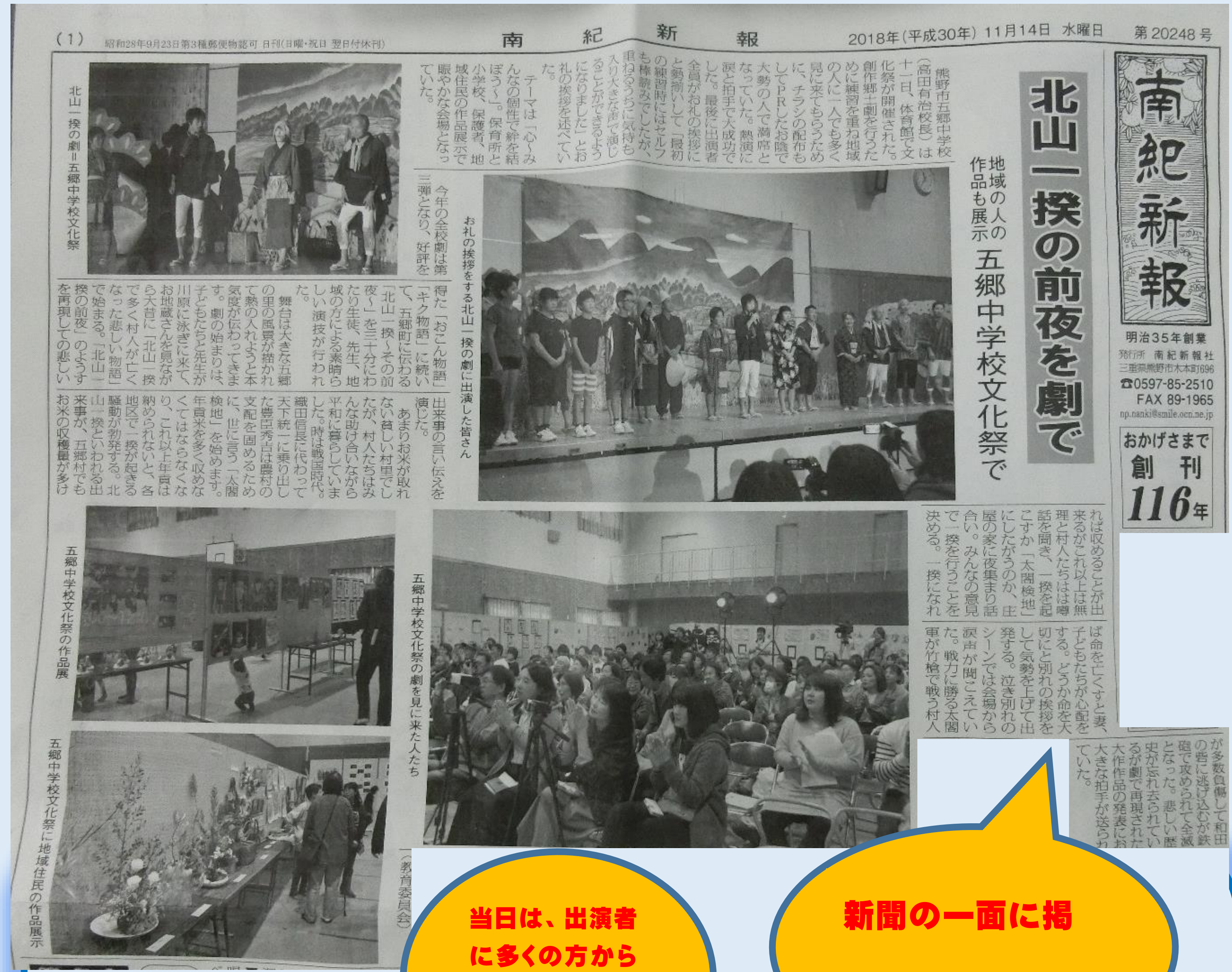
五郷小・五郷中コミュニティ・スクールの取組

五郷中文化祭

郷土劇に参加しました！



（1）　昭和28年9月23日第3種郵便物認可　日刊（日曜・祝日　翌日付休刊）　南紀新報　2018年（平成30年）11月14日　水曜日　第20248号

南紀新報

明治35年創業
発行所　南紀新報社
三重県熊野市木本町696
☎0597-85-2510
FAX 89-1965
np.nanki@smile.ocn.ne.jp

おかげさまで
創刊
116年

北山一揆の前夜を劇で

地域の人の作品も展示

五郷中学校文化祭で

熊野市五郷中学校（高田有治校長）は十一日、体育館で文化祭が開催された。創作郷土劇を行うために練習を重ね地域の人に一人でも多く見に来てもらうために、チラシの配布もしてPRしたお陰で大勢の人で満席となっていた。熱演に涙と拍手で大成功でした。最後に出演者全員がお礼の挨拶に勢揃いして「最初の練習時にはセルフも棒読みでしたが、重ねるうちに気持ちも入り大きな声で演じることができるようになりました」とお礼の挨拶を述べていた。

テーマは「心～みんなの個性で絆を結ぼう～」。保育所と小学校、保護者、地域住民の作品展示で賑やかな会場となっていた。

北山一揆の劇＝五郷中学校文化祭

お礼の挨拶をする北山一揆の劇に出演した皆さん

今年の全校劇は第三弾となり、好評を得た「おこん物語」「キク物語」に続いて、五郷町に伝わる「北山一揆～その前夜～」を三十分にわたり生徒、先生、地域の方による素晴らしい演技が行われた。

舞台は大きな五郷の里の風景が描かれて熱の入れようと本気度が伝わってきます。劇の始まりは、子どもたちと先生が川原に泳ぎに来て、お地蔵さんを見ながら大昔に「北山一揆」で多く村人が亡くなった悲しい物語で始まる。「北山一揆の前夜」のようすを再現しての悲しい出来事の言い伝えを演じた。

あまりお米が取れない貧しい村里でしたが、村人たちはみんな助け合いながら平和に暮らしていました。時は戦国時代。織田信長に代わって天下統一に乗り出した豊臣秀吉は農村の支配を固めるために、世に言う「太閤検地」を始めます。年貢米を多く収めなくてはならなくなり、これ以上年貢は納められないと、各地区で一揆が起きる騒動が勃発する。北山一揆といわれる出来事が、五郷村でもお米の収穫量が多ければ収めることが出来るがこれ以上は無理と村人たちは噂話を聞き、一揆を起こすか「太閤検地」にしたがうのか、庄屋の家に夜集まり話合い。みんなの意見で一揆を行うことを決める。一揆になれば命を亡くすと妻、子どもたちが心配をする。どうか命を大切にと別れの挨拶をして気勢を上げて出発する。泣き別れのシーンでは会場から涙声が聞こえていた。戦力に勝る太閤軍が竹槍で戦う村人が多数負傷して和田の砦に逃げ込むが鉄砲で攻められて全滅となった。悲しい歴史が忘れ去られているが劇で再現された大作作品の発表にお大きな拍手が送られていた。

五郷中学校文化祭の作品展

五郷中学校文化祭の劇を見に来た人たち

五郷中学校文化祭に地域住民の作品展示

（教育委員会）

当日は、出演者に多くの方から声かけをいただきました。

新聞の一面に掲載されました。

連日、各新聞に取組の記事を掲載いただき、ありがとうございました。